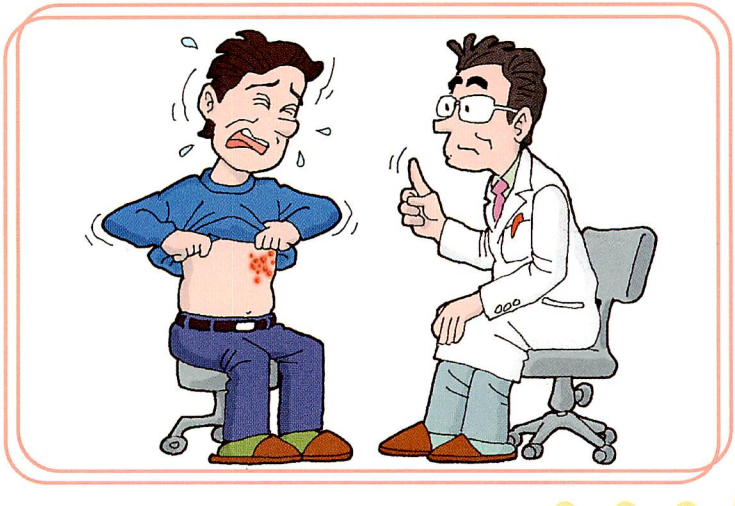
ご存知ですか…？

帯状疱疹

監修：東京女子医科大学皮膚科教授　川島 眞



帯状疱疹ウイルスは、神経にひそみます。

帯状疱疹は、水ぼうそう（水痘）と同じウイルスが原因で発症します。子供のころに水ぼうそうにかかると、治った後も水痘ウイルスは、長いあいだ神経の中にひそんでしまいます。

どのようなときに、おこるのですか?

ウイルスが暴れだした神経の走る所に痛みがまず現われます。

疲れやストレスなどでからだの抵抗力が落ちると、そのウイルスが突然暴れだすのです。痛みとともに帯状疱疹があらわれます。

その他、かぜ、免疫力をおさえる薬の使用、またがんにかかっている患者様などでは、帯状疱疹がおこりやすくなります。

帯状疱疹はご高齢の方の病気として知られていますが、若い方や小児にもみられます。

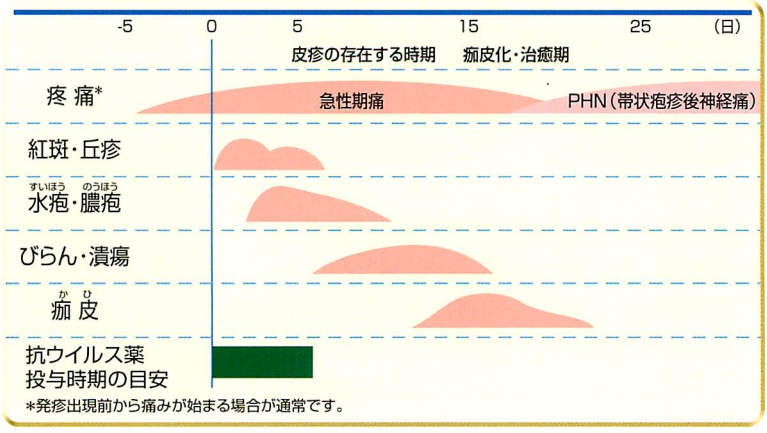
また一生に一度しか発病しないと言われてきましたが、二度かかる方もまれにみられます。

どのような症状がおきますか?

最初は、チクチクした痛みがおこり、数日するとその部分が赤くなり（紅斑）、やがて水ぶくれ（水疱）になってきます。10～14日くらいになると、水ぶくれがかさぶたになります。かさぶたがとれて治りますが、ひどい時は潰瘍になることもあります。痛みは急激に強くなり、1～2週間続きます。通常、紅斑がはじまってかさぶたがとれるまで、約3週間から1ヶ月くらいです。

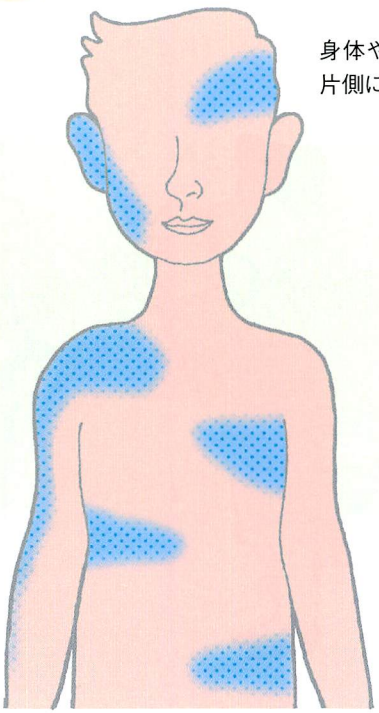
ご高齢の方、糖尿病や膠原病で免疫力が落ちている方、抗ウイルス薬の治療が遅れた方などでは、後遺症として痛みが残る場合があります。これは帯状疱疹後神経痛と呼ばれ、引き続き医師の指導に従って治療を続ける必要があります。

帯状疱疹の特徴的な症状とその経過



*発疹出現前から痛みが始まる場合が通常です。

帯状疱疹のおこりやすい部位

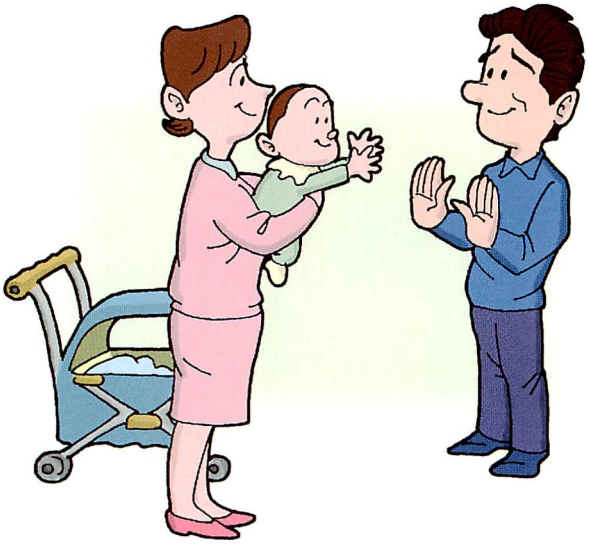


身体や顔のどちらか
片側におこります。

帯状疱疹ウイルスは、ひそんでいる神経にそって皮膚に症状が現れます。症状のできる場所は、患者様によって違いますが、顔面、胸から背中、腰から足などの片側に多く発病します。

また耳の近くにできると顔面神経麻痺をおこすこともあります。通常は一ヶ所のみに生じます。

うつしてしまうことがありますか?



水ぼうそうにかかったことのない方に接触するとうつす可能性がありますので、赤ちゃんや妊娠されている方、まだ水ぼうそうにかかっていない方との接触は、気をつけて下さい。

日常生活の中で次のような注意を守って、帯状疱疹を悪化させないようにしましょう。

日常生活の注意 こんなことに気をつけましょう

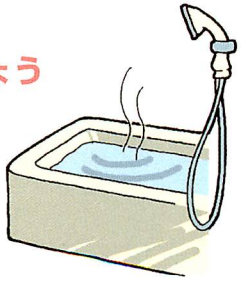
① 発疹が出てから10日間は特に安静に保つ

睡眠と栄養をよくとることが肝心です。考えようによっては、帯状疱疹はからだが疲れていて休息を求めていることのサインともいえるのですから、これを機会として養生するくらいの気持ちで休みましょう。

② 水疱が破れてただれている間は、お風呂やシャワーはひかえましょう

じゅくじゅくしていなければ、お風呂に入っても大丈夫です。

でも新しい水疱を破ったり、かさぶたをはがさないようにしましょう。



③ 医師の指示どおりに薬を使う

普通は怖い病気ではありませんが、症状が出る場所やその方の体調によって、病気の程度も変わります。症状によっては入院の可能性もあります。素人判断は病気を治りにくくし、後々、痛みが残ったり、ひどい潰瘍になることもありますので、おかしいと思ったら早目に医師の診察を受け、指示を守ることです。

病医院名

〒965-0005 会津若松市一箕町亀賀藤原417-3
医療法人 健心会 えんどうクリニック
院長 遠藤 剛
電話0242(33)0700

制作：株式会社 アイク
〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-16-4

2005.03.7927-2 21AIK3